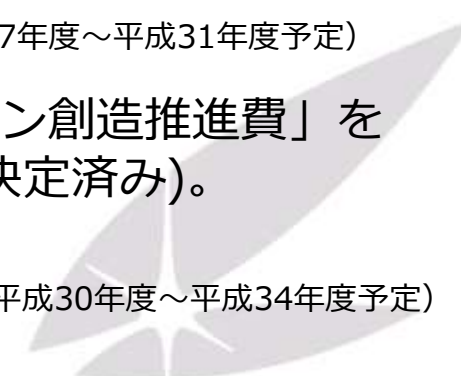


<SIPの特徴>

- 総合科学技術・イノベーション会議が、社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題、プログラムディレクター（PD）及び予算をトップダウンで決定。
- 府省連携による分野横断的な取組を産学官連携で推進。
- 基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一気通貫で研究開発を推進。

<SIP第1期と第2期>

- SIP第1期：平成26年度予算より「科学技術イノベーション創造推進費」を325億円計上（平成30年度予算は280億円）。
サイバーセキュリティに関する課題：
「重要インフラ等におけるサイバーセキュリティの確保」（平成27年度～平成31年度予定）
- SIP第2期：平成29年度補正予算として「科学技術イノベーション創造推進費」を325億円計上（課題候補を総合科学技術イノベーション会議で決定済み）。
サイバーセキュリティに関する課題：
「IoT社会に対応したサイバー・フィジカル・セキュリティ」（平成30年度～平成34年度予定）



プログラムの仕組み

<実施体制>

○課題ごとにPD（プログラムディレクター）を選定（ガバニングボードの承認を経て内閣総理大臣が任命。）。

○PDは関係府省の縦割りを打破し、府省を横断する視点からプログラムを推進。このためにPDが議長となり、関係府省等が参加する推進委員会を設置。

○ガバニングボード（構成員：総合科学技術・イノベーション会議有識者議員）を随時開催し、全課題に対する評価・助言を行う。

○プログラム統括を設置し、ガバニングボードの業務を補佐する。（平成30年度から）

